
新型コロナウイルス感染 発生から収束まで

グループホームかねぐすく
管理者:金城 学

施設概要

所在地：糸満市兼城

建物：鉄筋コンクリート2階建て

1階 デイサービス 定員25名

2階 グループホーム 定員9名(満床)

男性1名 女性8名

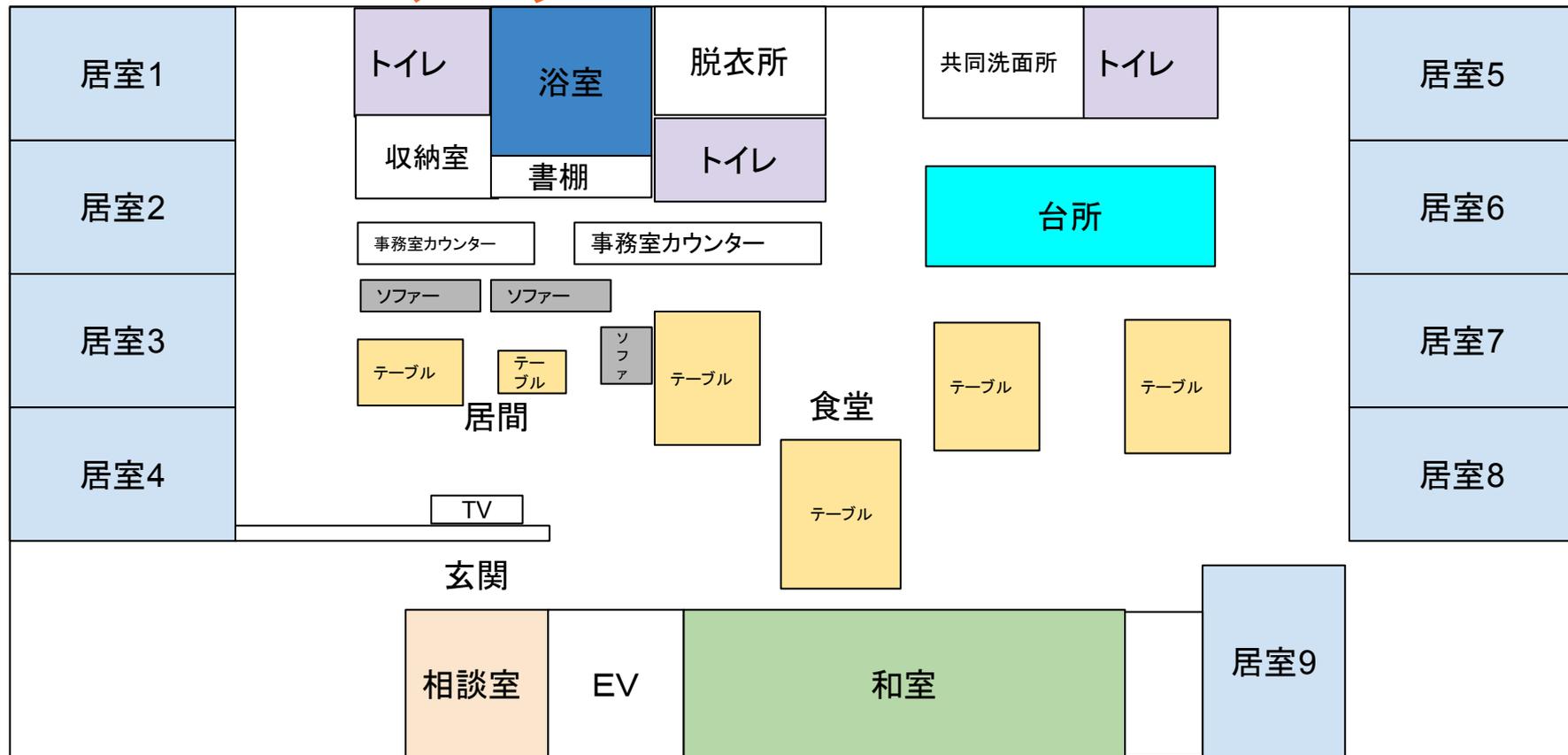
職員体制：グループホーム 8名

デイサービス 7名

管理者、介護支援専門員、看護師、

機能訓練員、介護員

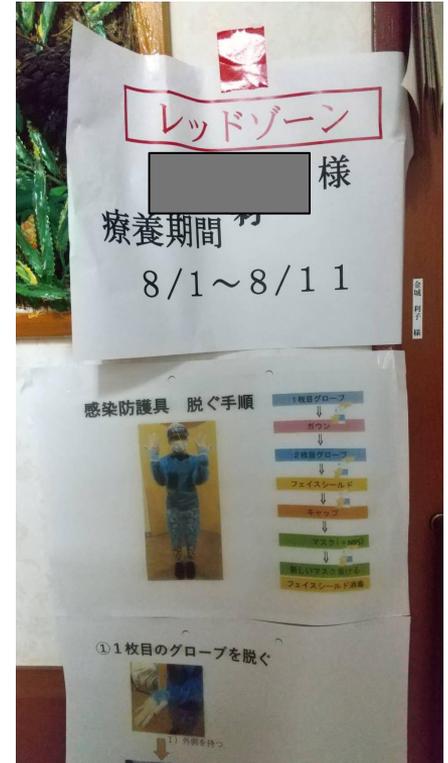
フロアマップ



平時のフロアの様子



陽性者の各居室入口ドアへ貼り出す



陽性者の各居室ごとにゴミを廃棄



日付をマジックで記入しベランダへ出し3日間放置後ゴミ捨て場へ

食事は使い捨て食器使用(弁当箱)



居室で頂き居室のゴミ箱へ

陽性者の状況及び対応

7月25日

深夜に**男性入居者1**が発熱、その日の朝抗原検査にて陽性確認、同じ日に**女性入居者2**の発熱あり抗原検査するが陰性でしたが、感染の疑いあり陽性者対応。職員は定期的に行っているCR検査提出日

7月26日

昨日陰性だった**女性入居者2**が、計3回の検査で陽性反応。沖縄県コロナ対策室より施設支援班2名の派遣があり、指導等を受け、酸素濃縮器1台、パルスオキシメーター1台借用。あと、グループLINEで情報の共有も行う。PCR検査結果、**GH女性職員3**が陽性、本人へ確認すると23日に熱はないがよくある風症状があったとの事、23日と24日は休日で、25日に深夜勤務した。この時点で感染経路が判明。

7月27日

デイ男性職員4がのどの違和感で抗原検査陽性、GHへの接触が無いとため感染経路は不明。その日も2名の**女性入居者5, 6**が発熱のため抗原検査にて陽性。女性職員1名出勤時にのどに違和感訴え抗原検査は陰性でしたが、そのまま帰宅させ待機、その時点で階下のデイサービス閉鎖検討、その日のうちにデイサービス利用者家族およびケアマネ等の関係者へ休み等の調整してもらう。

7月27日

陽性者の状況及び対応

男性入居者1が状態悪化、血中酸素飽和度PO2が90%を切る事があり酸素濃縮器使用、救急車要請したが、支援班より搬送しても入院は厳しいので酸素濃縮器をMAXで吸入しPO2が上がれば救急搬送はしないで施設で診てほしいとありましたが、施設としてはとにかく搬送してほしいと押し問答、救急隊へお願いし、受け入れ先の病院を探してもらい搬送しました。結果、新型コロナ感染に伴う誤嚥性肺炎による呼吸不全との事で治療し待機ステーションにて待機。この時点で入居者4名症状がなくとりあえず1階デイサービスへ避難し、そのまま階のデイで夜間も過ごすか検討、どうしても職員の配置が難しく2階自居室へ戻る。

7月28日

支援班からの紹介で、西崎病院の新屋先生が支援に入ってもらい、本人の状態観察で時々見回りに来たり、発症届や解熱剤等の処方してもらいました。前日に搬送した男性入居者1が治療にて改善しているとの事で翌日には施設へ戻ってきました。女性入居者7が抗原検査にて陽性。

7月29日

26日に南部保健所へ入居者及び職員へPCR検査を依頼していて、29日にキッドが届き検査し沖縄県臨床検査センターへ提出。

7月30日

陽性者の状況及び対応

前日の検査結果、女性入居者8とGH職員、9, 10, 11, 12が陽性。

7月31日

新規感染者なし。

8月1日

女性入居者13が発熱、咳があり抗原検査陽性、SPO2が92%低めで新屋先生のアドバイスもあり酸素吸入開始。GHに応援に入っていたデイ女性職員14が係りつけの病院で抗原検査陽性。

8月2日

女性入居者15が発熱、咳があり抗原検査陽性、豊見城中央病院主治医にて発症届、また、コロナ治療薬(ラゲブリオカプセル)処方。

8月3日

新規感染者なし。

8月4日

新規感染者なし。

8月5日

女性入居者16が発熱、咳があり抗原検査陽性、この時点で入居者全員陽性。また応援に入っていた男性職員17も抗原検査にて陽性。

8月6日

新規感染者なし。

8月7日

新規感染者なし。

陽性者の状況及び対応

陽性者の状況及び対応

8月8日

母体の特養へ派遣しているGH男性職員18が定期PCRで陽性。この日から新規感染者は0となっておりますが、最初の陽性者で男性入居者1が微熱が続いており、誤嚥性肺炎の治療が必要ではないかと主治医へ相談。

8月9日

男性入居者1へ訪問看護にて点滴治療開始～15日まで、その後安定経過。

8月10日

新規感染者なし。

8月11日

新規感染者なし。

陽性者の状況及び対応

8月12日

新規感染者なし。

8月13日

新規感染者なし。

8月14日

入居者最後の陽性者の隔離解除。その後の入居者は全員安定経過。

最終感染者数及び重症度

入居者9名

感染者 9名

軽症者 7名

中等症者 2名(酸素吸入・点滴)

重症者 0名

職員GH8名 デイ7名

感染者 GH6名 デイ3名

軽症者 9名

中等症者 0名

重症者 0名

自己評価

- 1 最初の感染者が発生した際、何から始めるのか何をどうしたらいいか手順がわからず慌てたので、準備不足を実感。
 - 2 ニュースで同じ業態施設のクラスター発生があり、いつかはわが身だと思いましたが、内心、どこか他人事と思う自分もあって危機感がなかったと反省。
 - 3 感染対策の一つ換気ですが、猛暑でもあり熱中症との兼ね合いで換気が不十分だった。
-

自己評価

- 4 防護具(エプロン・N95マスク・手袋・キャップ)の着脱方法を居室前に貼ってある手順を見ながらやってもうまくできなかった。
 - 5 感染対策等の物資の備蓄が少なかったが、母体の法人の支援もあり不足する事もなく良かった。又、感染者リストなどの作成を法人総務で管理してもらい、ネット上で都度、情報の共有が出来て良かった。
 - 6 認知症入居者に対する感染対策には限界があると実感した。
-

今後の備え

1. BCPを早急に作成し、シュミレーションをしておく
2. 常に危機感を持つよう、職員全体で意識する。
3. 感染対策を継続しつつ、見直しや感染者発生時の強化対策
4. 防護具の着脱手順の研修
5. 関係機関との連携の構築
6. 認知症入居者に対する感染対策

ご清聴ありがとうございました
